

2017年度「教育・研究年度計画書」の策定とその推進について (学長方針)

※ 以下は2017年度「教育・研究年度計画書」の策定とその推進について
(学長方針)の基本方針全文及び重要戦略の骨子となります。

人類の「共創的」未来へ

I 基本方針—長中期計画書—

(グランドデザインに基づく教育・研究計画)

地球を情報ネットワークが包み込み、人類は歴史上初めて、人類を同時代人として共感できる場所に立った。人類の課題を共有し、未来への不安と期待を共有している。「類的存在」という19世紀の人間像は、現在の言葉として復権する。

大学の教育と学問はこの人類のネットワークの中にある。学問において、社会の課題や人類の課題はいつも意識されてきた。時にそれは、学問共同体、科学者共同体の課題でもあり、現在の人類の課題でもある。教育も学問も、そこでは、個々の人間の関心を類的存在としての人間の課題に向かわせる。それは、グローバリズムが経済の脱領域的性格に焦点を合わせることは本質的に異なる。

現在における人類の課題とは何か。それは、貧困の克服、病気の解明と克服、人類を前進させる技術、平和の戦略、人権の擁護、未知なるものの解明、人間そのものの解明などである。大学は、この人類の課題を解決するための拠点に他ならない。教育もそこに焦点がある。高校までの教育と大学教育との大きな違いはそこにある。大学は個々の学生の能力を高めるためだけの場所ではない。人類の課題へと学生を向かわせることこそが、大学教育の核心である。

本学の建学の精神で謳う「権利自由・独立自治」は、現在の人類にとっての課題であることは明白であり、未到の課題でもある。戦争やテロによる人間の権利と自由の侵害、貧困問題、人類にとって多くの課題が目前にある。学問の力によって、人類を前進させることができるのか。人類を前進させる技術を前へ押し進めるためには何が必要なのか。人類の「共創的」未来へ向けて、大学として常に問い続けていくとともに、各学部及び研究科が、教育・研究において、いかなる人類の課題に挑戦しようとしているのかを鮮明にす

ることが、大学を前進させるのである。

現在、私立大学を取り巻く経営環境は、18歳人口の漸減や文部科学省による入学定員の厳格化なども含め、大変厳しい状況にある。しかし、こうした環境の変化に対し、大学側から教育・研究改革に関する建設的なビジョンを強く発信することが重要である。

こうした現況に鑑み、本学が進むべき指針を次のとおり掲げる。

1 教育

「総合的教育改革の実質化 ～国境を越えるカリキュラムの確立へ」

総合的教育改革を実質化し、国際通用性のあるカリキュラムの確立を目指します。学生の留学促進等、国際的な教育基盤を整えるとともに、本学としての新たな教育方法を探求します。

2 研究

「共創による明治大学の研究のブランド化」

本学の研究ブランドを確立するため、グローバルな共創的研究拠点を育て、「明治大学といえば、この研究」と呼ばれる研究を増やしていくとともに、そのための体制を強化します。

3 社会連携・社会貢献

「『オール明治』の人的資源を活用した社会連携と知的資産の社会への還元」

創業者出身地やキャンパス所在地をはじめとする各地域、また、社会のあらゆる分野で活躍する校友や父母とも連携・協力し、次世代を担う人財の育成と生涯教育を通して、より良い社会創生に貢献するため、教育研究の成果を社会に還元します。

4 国際連携

「多様なモビリティの促進 ～すべては学生の利益のために」

海外協定校との研究・教育のさらなる連携を実現し、世界のグローバル化状況に果敢に挑む明治大学を目指します。「スーパーグローバル大学創成支援」事業の構想調書に示した達成目標も視野に入れながら、学生のニーズ、学部・大学院、各機関のニーズを的確に把握し、各機関との緊密な連携を通じて学生・大学院生のグローバルな資質・対応力の向上を図って

いきます。

5 学生生活支援

「Students First! ～『他者』のために前へ」

学生生活全般の支援，スポーツの振興を強化し，すべての学生が充実したキャンパスライフを送ることができる環境を整えます。また，学生の就職支援を一層充実させるとともに，そのための体制を強化します。

6 男女共同参画と平等の実現

「ここから始まるダイバーシティ-フレンドリーキャンパス ～共に前へ」

あらゆる多様性－性別の多様性，身体機能の多様性，文化的な多様性－を承認するとともに，それらの平等の実現に向けた実効性のある指針を策定します。「違い」にかかわらず，キャンパスのあらゆる場で平等に活動し，尊重される教育研究環境を整備します。

7 キャンパス構想

「長中期的ビジョンに基づいたグランドキャンパスデザイン の策定」

各地区の喫緊の施設整備課題に対応しながら，長中期的展望のもとに，創立 150 周年を見据えて，全キャンパスのグランドデザインを策定します。

8 大学の管理・運営

「開かれた大学運営を実現するための体制整備」

過去にとらわれない大学改革を進めるにあたり，組織の枠を超えた開かれた大学運営を実現するための体制を整備します。

Ⅱ 重点戦略 ー単年度計画書ー【骨子】

1 教育

「総合的教育改革の実質化 ～国境を越えるカリキュラムの確立へ」

総合的教育改革を実質化し、国際通用性のあるカリキュラムの確立を目指します。学生の留学促進等、国際的な教育基盤を整えるとともに、本学としての新たな教育方法を探求します。

1 - 1 教育内容・方法の見直しと成果指標の確立

学生が学修を継続するなかで、主体的に進路を選択できる能力を涵養するための課題に全学的に取り組みます。

- (1) 大学全体の3ポリシーの策定及び学部等の3ポリシーの検証
- (2) 学習成果の測定方法
- (3) 教育改善（FD）の推進

1 - 2 総合的教育改革の実質化

総合的教育改革の実質化のため、共に思考し、共に創造するための基盤となる教育体制を構築します。

- (1) アクティブ・ラーニングを活性化する授業運営体制の構築
- (2) 学生から見てわかりやすく骨太なカリキュラムの構築
- (3) 教育のグローバル化に対応した授業タームの設計
- (4) 大学の知的資源を最大限活用した学部間連携教育の展開
- (5) 新学部設置による教育の充実
- (6) 大学間連携による教育の充実

1 - 3 大学院，法科大学院，専門職大学院の改革

各大学院強化・連携のため、改革チームを設置し、大学院全体の組織の見直しも視野に入れて大学院改革を推進します。研究型大学院とプロフェSSIONナル・スクールたる専門職大学院の各々の特徴をより明確にし、定員充足率の向上を図ります。

- (1) 大学院と学部の連携強化
- (2) 研究の活性化
- (3) 法科大学院における司法試験合格率の向上
- (4) 専門職大学院の統合，大学院との連携及び他大学との連携強化
- (5) 各大学院の国際化

1 - 4 意欲ある学生の安定的な確保

意欲ある学生を公正かつ適切な評価基準・方法で獲得するための改革を進めます。

- (1) 時代の要請に対応する入試改革
- (2) 付属校との連携

2 研究

「共創による明治大学の研究のブランド化」

本学の研究ブランドを確立するため、グローバルな共創的研究拠点を育て、「明治大学といえ、この研究」と呼ばれる研究を増やしていくとともに、そのための体制を強化します。

- (1) 拠点型事業の獲得・発展・継続
- (2) 研究の国際化推進，国際シンポジウム
- (3) 研究不正防止体制の拡充・継続
- (4) 競争的研究資金獲得

3 社会連携・社会貢献

「『オール明治』の人的資源を活用した社会連携と知的資産の社会への還元」

創業者出身地やキャンパス所在地をはじめとする各地域，また，社会のあらゆる分野で活躍する校友や父母とも連携・協力し，次世代を担う人財の育成と生涯教育を通して，より良い社会創生に貢献するため，教育研究の成果を社会に還元します。

- (1) 学生の社会的成長を目指した地域連携事業の推進
- (2) 世界に羽ばたく人財の育成と世界につながるヒューマンネットワークの構築
- (3) 社会での「明治」のプレゼンスを高めるための生涯学習の展開
- (4) 博物館の充実
- (5) グローバル連携の推進
- (6) 次世代への継承のための環境保全へ
- (7) その他

4 国際連携

「多様なモビリティの促進 ～すべては学生の利益のために」

海外協定校との研究・教育の更なる連携を実現し，世界のグローバル化状況に果敢に挑む明治大学を目指します。「スーパーグローバル大学創成支援」事業，2016年度に採択された「大学の世界展開力強化事業」などの構想調書に示した達成目標も視野に入れながら，学生のニーズ，学部・大

学院，各機関のニーズを的確に把握し，各機関との緊密な連携を通じて学生・大学院生のグローバルな資質・対応力の向上を図っていきます。

- (1) 戦略的提携校政策の確立：300名の学生をトップスクールへ！
- (2) 留学生受入れ体制の拡充
- (3) 学生送出しの強化：多様なニーズに応える
- (4) 学生による学生支援の拡充
- (5) 教員のモビリティと教育の質向上
- (6) 混住寮の建設：国内異文化環境の整備
- (7) 国際連携機構の活動の「見える化」

5 学生生活支援

「Students First! ～『他者』のために前へ」

学生生活全般の支援，スポーツの振興を強化し，すべての学生が充実したキャンパスライフを送ることができる環境を整えます。また，学生の就職支援を一層充実させるとともに，そのための体制を強化します。

5 - 1 学生生活支援の充実

すべての学生（障がい者，留学生，生活困窮者，LGBTを含む）が充実したキャンパスライフを送れるように，学生生活全般に対する支援とキャンパス環境整備を図ります。

- (1) 経済的支援の充実
- (2) 正課外活動への支援
- (3) 学生参加型プログラムへの支援
- (4) 学生相談体制の充実
- (5) 学生の健康管理と福利厚生への支援

5 - 2 明大カレッジ・スポーツの振興

創立150周年を見据えたグランドデザインの一翼を担うものとしてのカレッジ・スポーツ振興をテーマとします。この主題に応えるために検討すべき課題は，次の3点です。

- (1) 競技スポーツ（特に体育会）の強化策の点検整備
- (2) 競技力の向上に向けた支援策の強化
- (3) スポーツ振興センター（仮称）の設置

5 - 3 就職支援の充実

「就職の明治」に相応しい力強く，かつきめ細やかなサポートを継続し，主体的に進路選択ができるよう，キャリア教育等，低学年から進路に関して考える機会を充実させます。

- (1) インターンシップの充実
- (2) 学部間共通総合講座「キャリアデザイン講座」の充実
- (3) 外国人留学生への就職支援体制の充実
- (4) 就職支援の充実

6 男女共同参画と平等の実現

「ここから始まるダイバーシティ-フレンドリーキャンパス ～共に前へ」

あらゆる多様性－性別の多様性，身体機能の多様性，文化的な多様性－を承認するとともに，それらの平等の実現に向けた実効性のある指針を策定します。「違い」にかかわらず，キャンパスのあらゆる場で平等に活動し，尊重される教育研究環境を整備します。

- (1) 教員採用における戦略的人事の導入
- (2) ライフイベントと研究の両立支援制度の拡充と強化
- (3) 大学運営の意思決定における女性参画の拡大
- (4) 障がい者少数者に対する教育研究支援・環境整備及び情報発信
- (5) 意識改革と理解増進

7 キャンパス構想

「長中期的ビジョンに基づいたグランドキャンパスデザイン の策定」

各地区の喫緊の施設整備課題に対応しながら，長中期的展望のもとに，創立 150 周年を見据えて，全キャンパスのグランドデザインを策定します。

7 - 1 各キャンパスの施設整備の課題

各キャンパスにおいて，安全性の確保，バリアフリー，国際化への対応等に配慮しながら，教育施設，研究施設，学生生活環境の整備を推進していきます。

- (1) 駿河台キャンパス
- (2) 和泉キャンパス
- (3) 生田キャンパス
- (4) 中野キャンパス
- (5) 図書館
- (6) スポーツパーク（仮称）

7 - 2 「明治大学キャンパスデザイン室」（仮称）の設置

7 - 1 における短中期的施設整備と長期的展望をつなぐキャンパスグ

ランドデザイン策定のために、以下の具体化を図っていきます。

- (1) 「明治大学キャンパスデザイン室」(仮称)の新設
- (2) 学生の主体的な学びを育むキャンパス環境の整備
- (3) 新設する教学・法人の協議体との連携による施設維持費の縮減

8 大学の管理・運営

「開かれた大学運営を実現するための体制整備」

過去にとらわれない大学改革を進めるにあたり、組織の枠を超えた開かれた大学運営を実現するための体制を整備します。

8 - 1 教学運営体制の整備

教育・研究の水準を向上させるための改革と運営を推進する体制と仕組みを整備します。

- (1) 大学ガバナンス
- (2) 教学マネジメントシステムの整備
- (3) 本学の求める教員像及び教員組織の編制
- (4) I R環境の整備・推進と内部質保証システム
- (5) 防災・危機管理の体制と態勢

8 - 2 戦略的広報の展開

戦略的広報で、大学のもつ「知と情報」を世界に積極的に発信する体制を整え、「明治 Value」を学内外へ発信します。

- (1) 学内広報の強化で「オール明治」の一体感を醸成
- (2) 大学ブランディング向上を目指す戦略的広報の新展開
- (3) ホームページをダイバーシティ・フレンドリーに刷新
- (4) 海外への情報発信の充実と更なるグローバル対応
- (5) 危機管理広報の万全な体制づくり

8 - 3 財務戦略

学部教育の基盤を再建するために、全体予算の再検討を行い、学部予算への配分を見直します。

- (1) 教学財務委員会の設置
- (2) 明治大学教育研究振興基金の活用

以 上